

別冊付録

- 1 保育に生かすエピソード記録
&年間指導計画
- 2 「ねらい」がわかる！
毎日のちょこっとあそび
- 3 園現場のための
子どもの病気ガイドブック



気づき、考える保育者に

こどもと4

幼児の指導

新年度Special対談

感じ、考え、「気づく」
保育を目指して

—増田まゆみ先生*秋田喜代美先生—

特集

振り返りから生まれる

プラスαの
対応力

—子ども・保護者・同僚—

とじ込み付録

育ちの
道すじが見える
発達表

4月の
指導計画と
保育資料



?と!が生まれる 自然環境

感動や発見から、「なぜだろう?」と考える力が育って
いきます。少しずつ園に自然環境を取り入れて、子ども
の感性をはぐくんでいきましょう。

監修=大澤 力(東京家政大学教授)

自然を取り込む園庭作り vol.1

子どもの思いにこたえて創る

執筆=内野彰裕(東京都・東京ゆりかご幼稚園園長)

話は、園舎増築に伴い10年前に池を移設したことから始まります。それまでは毎年池で産卵していたカエルが、新しい池では産卵せず、いつも遠く離れたアスレチックの陰にいました。子どもたちは、カエルを見つけたときに池に連れ戻していました。実はこのカエル、池にじっとしている種類のカエルではなかったのですが、子どもたちは心配げな表情で「アスレチックの近くに池を作ったらどうか?」。その一言から、池を移転し、小川も作るという里山ガーデン化計画がスタートしたのでした。既存の田んぼと連結させれば、もっと生き物が増えるのではというくももありました。子どもの思いから始まったこの作業には、子どもたちも大いにかかわり、完成後の愛着も、より深いものになったような気がします。



池に連れてきたよ。



しかし、翌朝には、アスレチックの陰に戻ってしまふ。

子どもたちも、盛り土の作業を手伝う。砂場の道具も大活躍。



完成後、水質(pH)が落ち着かなかったため、放流した生き物を水槽に戻し、底面の砂と土を入れ替え。

水が汚れていたら魚も苦しいよね。

赤ちゃんカエルが飛び出してきた!



カエルはU字溝で産卵した様子。「なんで、池で産卵しないんだろう?」



ようやく、思い描いていた風景に。これからみんなで、この環境を育てていく。

※このページでは、いつでも自然とふれあえる園庭を目指して、保育者と子どもと保護者で園庭改造成に乗り出した東京ゆりかご幼稚園の実践を、1年間ご紹介していきます。来月は「子どもの目の前で作業する」です。